

(4) 重度訪問介護の対象拡大について

① 新たに重度訪問介護の対象となる者の範囲について

(対象者の要件について)

重度訪問介護の対象については、現在「重度の肢体不自由者」とされているところであるが、「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」において、その対象が「重度の肢体不自由者その他の障害者であって常時介護を要するものとして厚生労働省令で定めるもの」とされ、平成26年4月より施行される。

新たに重度訪問介護の対象として追加となる者については、「障害者の地域生活の推進に関する検討会（以下「検討会」という。）」における検討結果を踏まえ、「知的障害又は精神障害により行動上著しい困難を有する障害者であって常時介護を要するもの」とすることとしている。

なお、行動障害を有しない者については、今回拡大される重度訪問介護の対象とはならないが、居宅介護等における取り扱いは従来通りである。また、検討会においては、現時点での課題についての検討状況等も勘案しつつ、引き続き検討する必要があるとされたところであるのでご留意願いたい。

対象者の具体的な要件については次の通りである。

- 障害支援区分4以上
- 現行の障害福祉サービスにおける障害程度区分の認定調査項目のうち、行動関連項目等（11項目）の合計点数が8点以上である者（平成26年度からの障害支援区分への変更に伴い、認定調査項目や選択肢の変更が行われることを踏まえ、所要の見直しを行う予定）

② 対象拡大後のサービス提供事業者の基準等について

(指定基準等について)

指定基準については、現行のとおりとする。ただし、従事者の要件については関係告示において厚生労働大臣が定めるものとされているところであるが、以下のとおり見直すこととしている。

報酬についても、原則として現行のとおりとすることとしている。

「事業の主たる対象とする障害の種類」を定めることができる運営規定については、肢体不自由者と知的障害者・精神障害者の障害特性が異なることに配慮する必要があることから、「主として肢体不自由者に対応する重度訪問介護」と、「主として行動障害を有する者に対応する重度訪問介護」を標榜できることとする。

従事者の要件については、「主として肢体不自由者に対応する研修」又は「主として行動障害を有する者に対応する研修」（今後、関係告示の改正により新設予定）のどちらかを受講していれば基準を満たすこととなるが、それぞれの障害特性に応じた研修を受講しておくことが望ましい旨を、別

途、事務連絡等で周知を図る予定である。なお、都道府県におかれては、肢体不自由と行動障害を有する者の双方を対象とする事業者もあり得ることに鑑み、必要な場合には双方の研修を受講することができるようご配慮願いたい。

(重度訪問介護従業者の研修について)

主として肢体不自由者に対応する重度訪問介護の研修は従来どおりとするが、主として行動障害を有する者に対応する場合は、専門性を確保するため、行動障害を有する者の障害特性に関する研修を新たに設定することとしている。

具体的な研修の内容については、強度行動障害支援者養成研修と同等の内容とすることとしている。このため、強度行動障害支援者養成研修のカリキュラムについて、平成 26 年 4 月の施行に間に合うよう通知する予定である。

なお、行動援護従業者養成研修についても、強度行動障害支援者養成研修の内容も活用しつつ見直しを検討することとしているが、具体的な見直しは平成 27 年度以降となることから、平成 26 年度においては従来のカリキュラムにより行動援護従業者養成研修を実施されたい。

(行動援護による支援の範囲の拡大について)

行動援護については、現行では主として外出及び外出の前後にサービスを行うものとされているところであるが、今般の重度訪問介護の対象拡大に伴い、行動障害を有する者の支援に関わるすべての事業者が支援方針や支援方法を共有できるよう、行動援護事業者が、居宅内において専門的なアセスメントによる問題行動の分析や環境調整等を行えるようにすることとしており、それに伴い、報酬告示の留意事項通知を今後改正する予定としているので、ご了解願いたい。

(行動障害を有する者に対する支援について)

行動障害を有する者に対する支援のイメージは、具体的には以下のとおりとなる。(関連資料 1)

- ・ 相談支援事業者を中心とした連携体制の下で、
- ・ 行動援護事業者等が一定期間、問題行動のアセスメントや居宅内環境調整等を行いつつ、
- ・ 居宅介護や他のサービスによる支援を行いながら、
- ・ サービス担当者会議等における連携により支援方法等の共有を進め、
- ・ 支援方法等が共有された段階で、サービス等利用計画の変更を行い、重度訪問介護等の利用を開始する。

行動障害を有する者に対する支援について留意する事項は以下の通りであるので、管内市町村及び関係事業者等に周知願いたい。

ア 行動障害を有する者に対する支援の情報の共有について

行動障害を有する者への支援については、行動障害に専門性を有する行動援護事業者と他のサービス事業者が役割分担を明確にしつつ、全体としての連携体制を構築して支援を行う必要がある。

支援に当たっては、様々なサービス事業者が関わる中で、相談支援事業者が招集するサービス担当者会議等において、関係者間で必要な情報を共有し、一貫性のある支援を行うことが重要である。

その中で、行動障害の専門家によるアセスメント情報（問題行動の分析や環境調整等の情報）を共有することが必要である。なお、相談支援事業者、行動援護事業者、重度訪問介護事業者等におけるこれらの情報の共有に資するため、検討会において提示されたアセスメントシート例（関連資料2）を参考に標準的なアセスメントについて、現在、「強度行動障害支援初任者養成研修プログラム及びテキストの開発について」（平成25年度障害者総合福祉推進事業 実施団体：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）において検討中であり、それを踏まえて別途お示しする予定である。

イ 相談支援事業者が留意する事項について

サービス等利用計画における支援方針は相談支援事業者が定め、これに基づき関係事業者がサービス提供を行っていくこととなるが、その際、行動援護の利用については、アセスメント等に必要な期間等を見込んだサービス等利用計画とし、これを超えて長期に至る場合は、モニタリング時等のサービス担当者会議による現状確認のほか、必要に応じて行動障害に関する専門知識や経験を有する者から助言を得るなど、適切に次の段階に移行するよう相談支援事業者が調整を行うこととする。

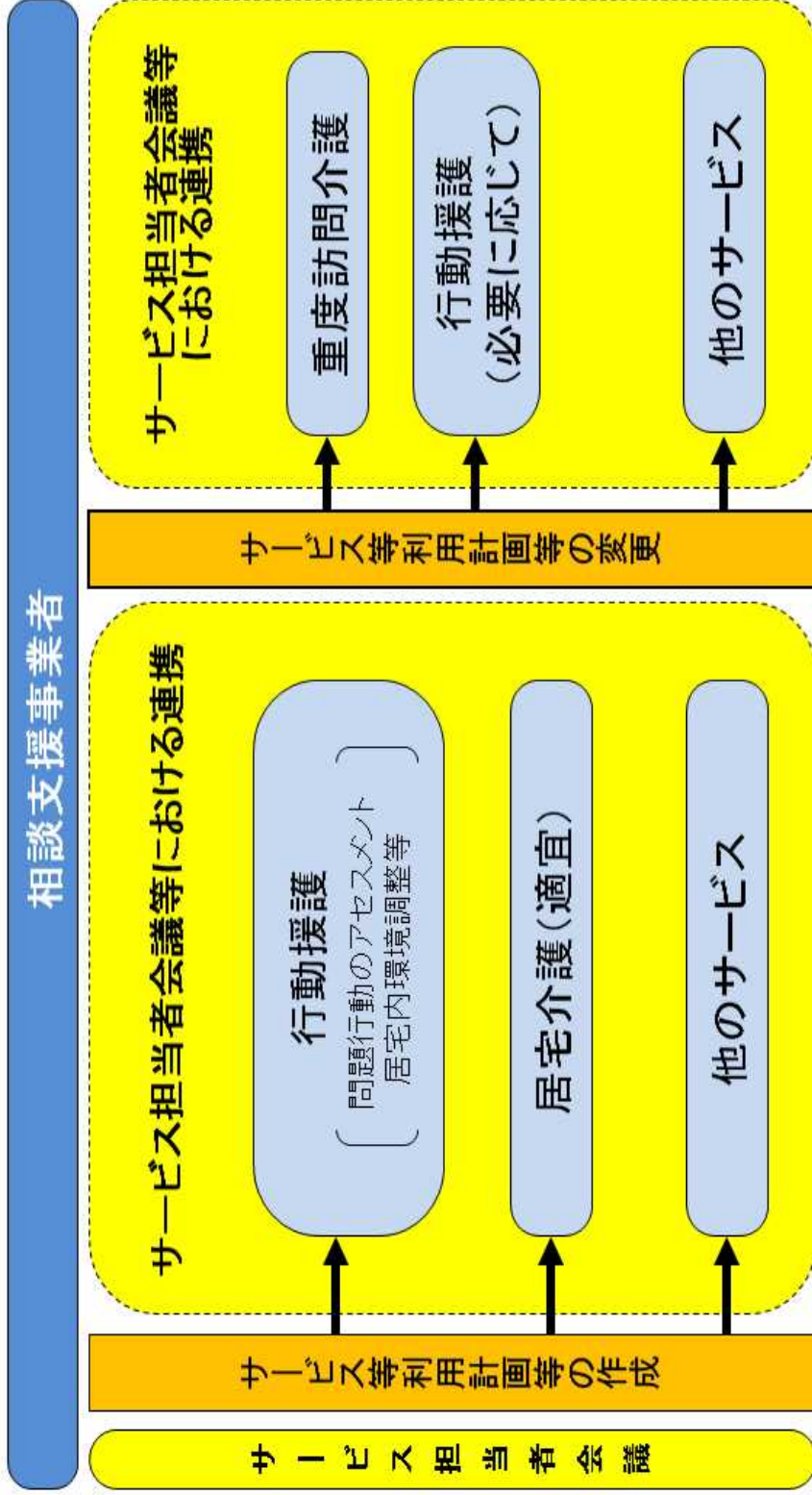
上記のとおり、相談支援事業者は、行動援護事業者のアセスメントを活用してサービス等利用計画を作成することとしているが、その際、行動援護事業者のアセスメント結果のみに依存してサービス等利用計画を作成することがないように留意する必要がある。

また、行動障害を有する者の状態の変化に対応しながら地域で継続的な支援を行うことができるようにするため、相談支援事業者が行うモニタリングについても、行動援護事業者等のアセスメントを活用することとする。

なお、地域において行動援護事業者の確保が困難な場合であって市町村が認める場合については、発達障害者支援センター・障害福祉サービス事業者・施設等の職員、或いは臨床心理士などの専門家であって、行動障害に関する専門知識や経験を有する者によるアセスメント等が確保されていれば、重度訪問介護の利用ができることとする。

重度訪問介護の対象拡大後における行動障害を有する者への支援について

平成26年4月以降のイメージ



※ 地域において行動援護事業者の確保が困難な場合等であって市町村が認める場合については、発達障害者支援センター・障害福祉サービス事業・施設等の職員、或いは臨床心理士などの専門家であって、行動障害に関する専門知識や経験を有する者によるアセスメント等を行うことも想定。

場面・行動	アセスメント1		アセスメント2		プランニング (午後の練習に使用します)		
	根拠となる行動 この行動から	本人の状況 このような状況と判断	関連する障害特性 この特性から	本人の頭の中 (セリフ) こんなことが言いたいのでは?	本人の見せる困難さ	★活用できる強み	関連する障害特性による具体的な支援の計画
① 予定を 理解する	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパーの指示 (いきましよう) に従えない (次の行動に移せない) 反響言語で答えている 激しく揺れている カバンを見てすぐ立ち上がった 	<ul style="list-style-type: none"> 状況を理解できていない ヘルパーの言葉がわからない 不安が強い カバンを見て出かけるとわかった 	<ol style="list-style-type: none"> 相手からの情報・メッ…の特性 時間整理統合の困難さ 相手に気持ちを伝える特性 変化の対応の困難さ 相手からの情報・メッセージをキャッチする特性 (★視覚に強い) 	<ul style="list-style-type: none"> 何を言ってるんだ? さっばりわからないなあ ポトト? 誰なんだこの人は? なんだ、そういうこと? 出かけるんだね 	<ul style="list-style-type: none"> いつもと違う状況が苦手 ことばの理解が苦手 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真の理解が可能 具体的なものを見ることができると行動が促される 	<ul style="list-style-type: none"> 外出の日課を写真カードにして、ラミネートをしておく (1. <u>本人が理解できる形態はことばより絵や写真なので</u>、3. <u>紙だけだと破いてしまうので</u>) 次の活動のカードを一枚ずつ手渡しで伝える。他のカードはヘルパーが持つて移動する。(1. <u>あまりたくさん情報をいっぺんに伝えなさいために</u>)
② パー ーシ ョッ プへ 移動 する	<ul style="list-style-type: none"> 立ち止まって揺れている ヘルパーに「ゆっくり」と言われながら走る カメラマンの動きにつられて走る 安全を確認する様子もなく走っている 	<ul style="list-style-type: none"> 目的がわからない/忘れた 言葉が伝わっていない 目の前のことに影響されている 目の前の道しか見えていない 	<ol style="list-style-type: none"> 相手からの情報5. 時間整理統合の困難9. 記憶の維持の困難 相手からの情報・メッセージをキャッチする特性 転導性・衝動性・強い注目、4. 転導性・衝動性・強い注目、6. 空間整理統合の困難さ 	<ul style="list-style-type: none"> あれ?何だっけ? どうすればいいんだっけ? 「ゆっくり」ってなんだ? 止められたけど…? 走ればいいんだね 道だ!進もう 	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的なことばの理解が苦手 記憶の維持が悪い 信号の理解ができない 安全の確認ができない 	<ul style="list-style-type: none"> 他人と出掛けることは理解できない 目的の場所が見え、加害できると落ち着き、歩いている移動が可能になる 	<ul style="list-style-type: none"> パワードームの写真カードを持ってもらって移動する (9. <u>記憶の維持を助けるために</u>) パワードームに着いたら、ハンバーガーショップのカードを渡し、移動する。(5. <u>活動の行程を視覚的に提示する</u>。1. 5. <u>次の活動を視覚的に伝えるため</u>。)
③ 食 べ る もの を 購 入 する	<ul style="list-style-type: none"> 反響言語が多く会話が成立しない レジシートを破いてしまう ジュースだけもって行こうとする 片ひざをついたりゴミを気にしたりしている 	<ul style="list-style-type: none"> 選べない/質問がわからない 購入の手順がわからない (★指示が具体的だとできる) 好きな (見えた) ものだけに集中している (★わかればできる) 見通しが特でなくて不安 	<ol style="list-style-type: none"> 相手からの情報・メッセージ 相手に気持ちを伝える特性 相手からの情報・メッセージ 時間整理統合の困難さ 転導性・衝動性・強い注目、注意 相手に気持ち…3. 感覚の…4. 転導性・衝動性・強い注目、 	<ul style="list-style-type: none"> ハンバーガーどっちがいいですかっという意味? お金?出すの?紙だ!破っちゃう あ、ジュースだ! どれを見たらいいんだろう 何をしたらいいんだろう 	<ul style="list-style-type: none"> 選ぶという行為が理解できない 指示が具体的でないとう理解できない 待ち時間が苦手 ことばだけでは繰り返すだけ紙を見ると破くことがある 不安が高くなるとひざをついたり、ゴミ拾いに熱中する 	<ul style="list-style-type: none"> 食べることが具体的に示されればできる ことばもある おれは破かなかつた ヘルパーからの指示があるまでカウンターの付近で待つことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 食べる予定のものはあらかじめ決めておく、カウンターでヘルパーが伝える。(1. 4. <u>本人に合った情報量</u>を、<u>刺激の少ない場所</u>で選んでおく。/<u>今回のステップは安全に移動が目的なので、できないところはヘルパーが行う</u>。) お金はあらかじめヘルパーが出しておく (今回のステップ)、適切な金額をSTさんに渡し払ってもらう (1. <u>指示が具体的にと理解できる</u>) レジシートは速やかに財布に片付ける (刺激統制)
④ 食 べ る	<ul style="list-style-type: none"> 早食い、一気飲みをしている ヘルパーに止められ加速した ヘルパーが「食べる前に手を洗いましよう」と言っても動かない。手を洗ってまた床をさわ ゴミばかり注目している 	<ul style="list-style-type: none"> あわてている ヘルパーの言葉がわからない 清潔にしてから食べる手順を理解していない 落ち着かない 	<ol style="list-style-type: none"> 相手からの情報・メッセージ 相手に気持ち…3. 感覚の…4. 転導性・衝動性…7. 変化の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ジュースまだ入っているよ とらないで! 食べるの?洗うの?何なの? 気になるー なんだか落ち着かないな 次は何をすればいいのかな? 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり食べたり、飲んだりすることが苦手 落ち着かない状況だと細かいゴミがきになって仕方なく、ゴミ拾いをしよう 手洗いの意味は理解しにくい 話ことばの理解は難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 食べることは好き 座って一連の流れをすることができ。または、ヘルパーに「片づけますよう」と言われるまで座っている 	<ul style="list-style-type: none"> 席まで移動したら、座る前に手洗いのカードを提示し、手を洗いに行く。(1. 5. <u>言葉よりも理解しやすい形態で次の活動を視覚的に提示する</u>) ヘルパーは食べ物に無用な手を出さず静かに見守る (1. <u>見て理解するための誤解を避ける</u>) 卓上のゴミなどの処理は本人の意向に従い、気にならないうような配慮を心がける (4. <u>刺激統制</u>) 座席はなるべく静かで落ち着けるような場所を選び、予約などをしておく。(3. 4. <u>刺激統制</u>)
⑤ 片 付 け る	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパーが指示するまで口をふきながら待っている ゴミ箱にゴミを入れようとしている (自分で捨てようとしている) 落ち着いて行動している 全部一緒に入れようとしている 捨てる場所が示されると行動でき 	<ul style="list-style-type: none"> 合図がないと終われない (★合図があるまで座っていられる) ★捨てるという目的を理解している ★理解して行動している 分別がわからない ★指示が具体的だとできる 	<ol style="list-style-type: none"> 変化の対応 (★同じば得意) 10. 長期記憶 (★継続ば得意) (★視覚に強い) 7. (★同じば得意) 10. (★継続ば得意) 相手からの情報・メッセージ 空間整理統合の困難さ 相手からの情報・メッセージをキャッチする特性 (★視覚に強い) 	<ul style="list-style-type: none"> 最後は捨てるんだね 終わった! え?何?どうすればいいの? ここに入れればいいんだね 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別が理解できない 	<ul style="list-style-type: none"> やるのが具体的に示されればできることもある 捨てるということはわかっている 	<ul style="list-style-type: none"> まず、トレイを置いてから片づけることを促す (6. <u>物の置く場所等具体的な指示を促す。道具を整理して伝える</u>) 本人が持ったものを見て適切な場所を指差しで提示し、捨てもらう。(1. <u>言葉より視覚的情報で伝える</u>) 本人がしたことややり直しさせるような指示ではなくできるだけ予告的な促しを心がける (10. <u>できるだけ成功体験で伝える</u>)
⑥ 自 宅 へ 移 動 する	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて歩いている (自分で歩いている) 車通りが激しくてもマイペース(車を気にしていない) 	<ul style="list-style-type: none"> 帰宅すると理解している ★帰宅すると理解している 安全確認は苦手 	<ol style="list-style-type: none"> 変化の対応 (★同じば得意) 10. 長期記憶 (★継続ば得意) 転導性・衝動性・強い注目、注意6. 空間整理統合の困難さ 	<ul style="list-style-type: none"> 食べたから帰るんだな! うちだ!うちへ帰ろう! 	<ul style="list-style-type: none"> 信号の理解ができない 安全確認ができない 	<ul style="list-style-type: none"> 帰りというように目的がはっきりしているれば落ち着いて歩くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ケアホームのカードを持ってもらって帰ることを知らせる (1. 5. 9. <u>ことばより理解できる形態で、次の活動を予告し、記憶の維持を助ける</u>) ヘルパーが車道側を歩く (本日のステップ)

行動障害がある者に対するアセスメントから支援までのプロセス

